

# 武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006  
 武蔵野市中町1の13の1 3F  
 電話 0422(51)3131  
 FAX 0422(51)3133  
 musasino@yomiuri.com  
 都内版編集室  
 電話03(3217)1465・1466  
 江東支局 電話03(3631)6116  
 立川支局 電話042(523)4477  
 ホームページ  
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は  
**0120-4343-81**

【広告】読売Palette  
 03(6272)9027  
 【折込チラシ】 0120-03-4343  
 【読売旅行】 03(5550)0666

9月16日(木曜日)  
 旧 8月10日<大安>

あすの暦

通日 259  
 月齢 9.1  
 (正午)

日出 5.24  
 日入 17.47  
 月出 15.09  
 月入 —

東京標準  
 満潮 15.21  
 干潮 7.07  
 20.11  
 (長潮)

宮部みゆき責任編集

## 「松本清張傑作短篇コレクション 上」

別冊文藝春秋(昭和32年8月)に最初に掲載された「捜査圏外の条件」は、いくつかの選集や短編集に所収されていますが、宮部みゆき責任編集版を選びました。小説家の宮部みゆきさんは、大の清張ファン。この本のために独自の章立てを作り、各章に「前口上」を付ける楽しい構成になっています。



(文藝文庫)

# 愛と復讐の舞台に

文人の  
 武蔵野

松本清張(1909〜92年)は、昭和30年に発表した短編小説「笛壺」で初めて「武蔵野」を描きました。それは、初志を貫き東京で夢を叶えた老齢の男性が浮世の虚しさを感じ、家を離れて孤独と向き合い過去をふりかえる観念的な場所でした。

続く昭和31年の「声」では、国木田独歩の力を借りて「武蔵野」を描き、「美しい女」の死体が発見される具体的な

## 松本清張 ③



「捜査圏外の条件」はテレビドラマにもなった(読売新聞1989年7月3日夕刊)

場所として設定しました。そこは、受話器越しの声を聞き分ける耳を持ち、殺人犯の声を聞いてしまったために殺害されたその「美しい女」が葬送される場所でもありました。

そして昭和32年に発表した「捜査圏外の条件」では、主人公が、今は亡き愛妹と暮ら

した「阿佐ヶ谷の奥」の家を思い出しながら、記憶の中の「武蔵野の匂い」を懐かに嗅いでいます。

「捜査圏外の条件」は、妹に「悪徳」を加えた同僚への報復を決意した兄が、7年間周到に準備した復讐計画の顛末を手紙に認め書き終わるまでの物語です。手紙の内容が犯罪者による自作の自供書の役割を担っていて、それがそのまま作品の大部分を構成する書簡体小説でもあります。

作中の手紙は「自分は阿佐ヶ谷の奥に一軒借りて、妹とともに住んだ。今はどうなっているか知らないが、当時はまだ近所に小さな雑木林が残っていて、無理に嗅げば、武蔵野の匂いではなくはなかった。自分は心たのしく通勤した」と始まります。妹の死後、

兄は遠大なアリバイ作りのために武蔵野を離れますが、殺害相手の元同僚が出世しながら転動する主な地域もまた、阿佐ヶ谷と同じ沿線の武蔵野でした。武蔵野が生んだ愛情劇だと言えます。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋 悠)

おすすめの1冊